

決算説明会

2024年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2024年2月2日

吉田です。

2024年3月期第3四半期の連結実績についてご説明します。

3Q連結業績サマリー

売上高は四半期として過去最高

(百万円)	2023年3月期	2024年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	371,424	379,747	381,207	+2.6%	+0.4%
営業利益	25,495	21,141	24,027	-5.8%	+13.7%
税引前利益	19,526	22,421	20,737	+6.2%	-7.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	12,271	15,981	14,754	+20.2%	-7.7%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	29.74	39.23	36.49	+22.7%	-7.0%

為替レート	2023年3月期 3Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q
US\$	144.25円	142.47円	149.09円
ユーロ	143.93円	155.71円	159.31円
タイバーツ	3.89円	4.09円	4.15円
人民元	20.22円	19.76円	20.47円

2024年3月期第3四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で2.6%増、前四半期比0.4%増の3,812億700万円となりました。

営業利益は、前年同期比で5.8%減、前四半期比13.7%増の240億2,700万円となりました。

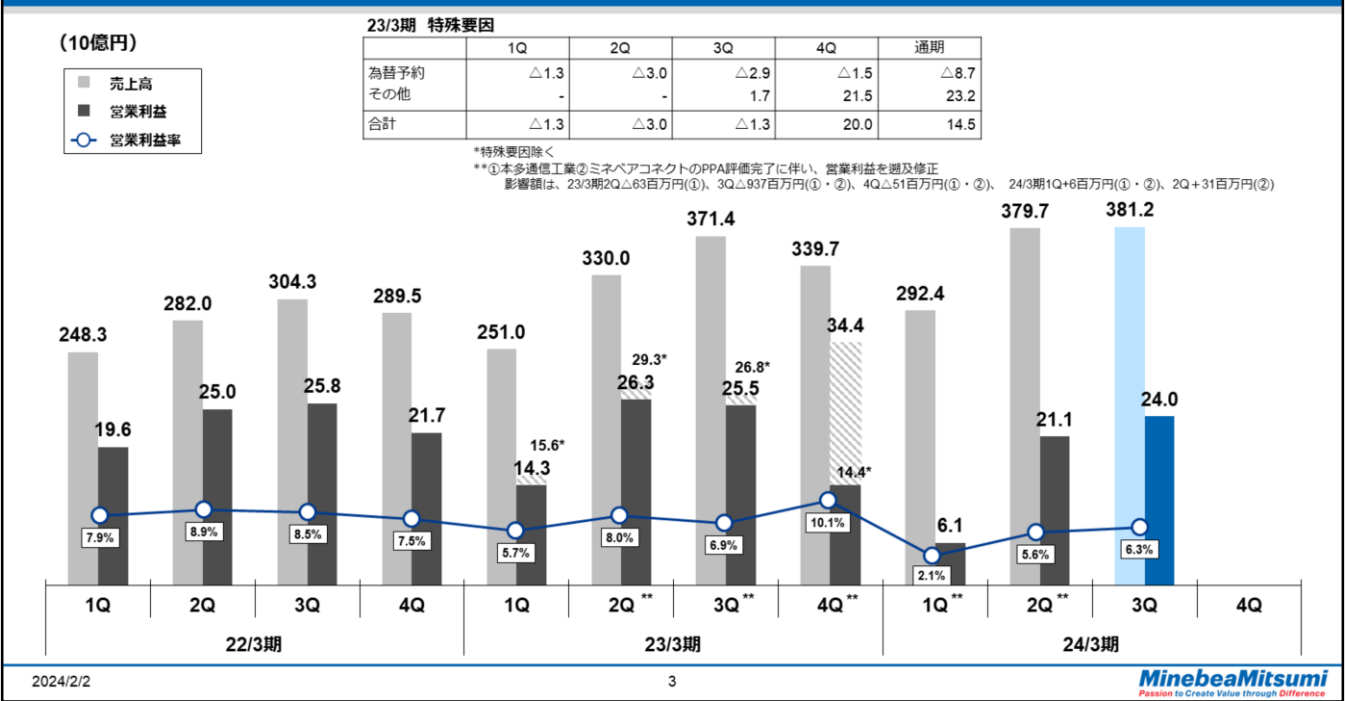
親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比20.2%増、前四半期比7.7%減の147億5,400万円となりました。

売上高は四半期として過去最高となりました。

為替の影響は、売上高で前四半期比プラス123億円、前年同期比プラス131億円、営業利益は前四半期比でプラス26億円、前年同期比はプラス4億円との推計です。

なお、本多通信工業およびミネベアコネク트의PPAに伴い前期および今期1Q、2Qの財務諸表を若干遡及して修正しています。以降のページでは修正後の数値を使用していますのでご注意ください。

売上高、営業利益、営業利益率

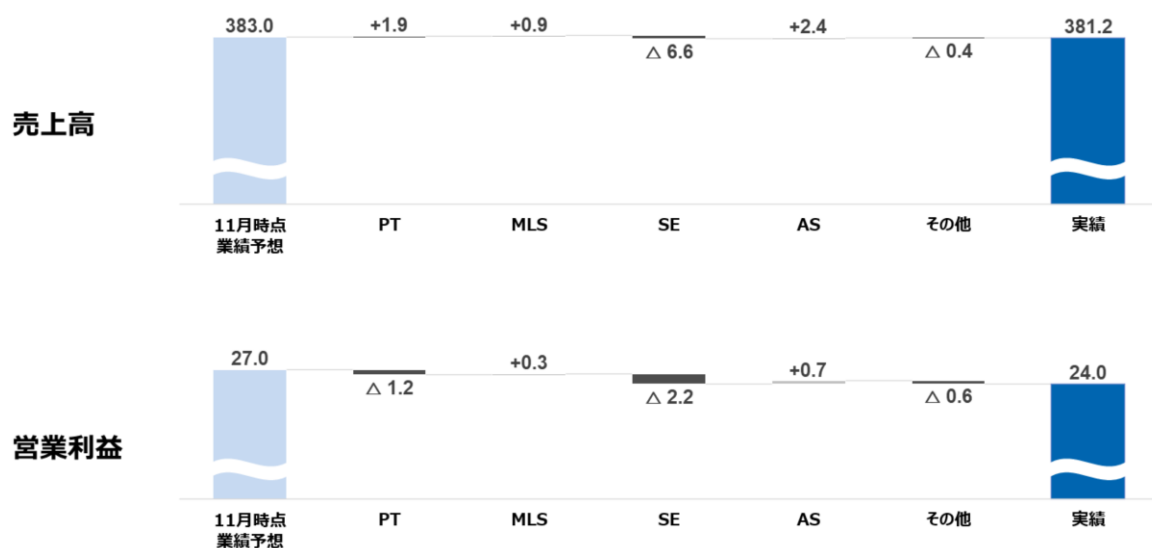


売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

第3四半期の営業利益率は6.3%となりました。これは前年同期比では0.6ポイント低下、前四半期比では0.7ポイントの上昇となりました。

3Q実績 11月時点業績予想からの差異

(10億円)



2024/2/2

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

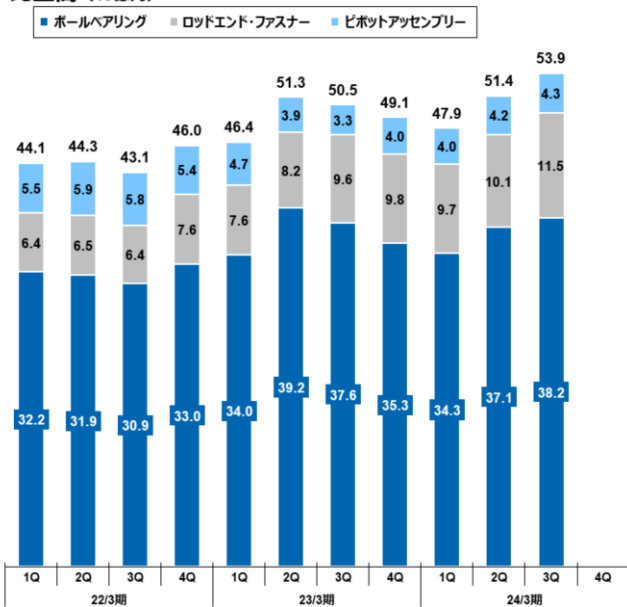
こちらは、第3四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、11月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

売上高においては、PTは、データセンター向けが低調に推移しているものの、自動車向け及び航空機向けが堅調に推移し、想定を上回りました。MLSは、車載向けモーターや電子デバイスが想定を上回りました。SEは、主に光デバイスで想定を下回りました。ASは、自動車生産の回復に伴い想定を上回りました。

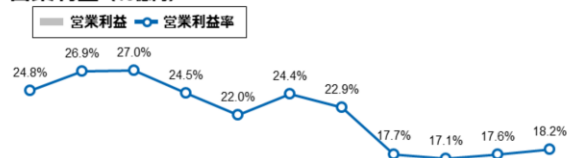
営業利益においては、PTは、稼働率の低下により、想定を下回りました。MLSは、車載向けモーターや電子デバイスが堅調に推移したことにより概ね想定通りとなりました。SEは、主に光デバイスで想定を下回りました。ASは、価格是正や生産性改善効果により想定を上回りました。

プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	△0.2	△0.3	△0.4	△0.2	△1.1
その他	-	-	-	△1.4	△1.4
合計	△0.2	△0.3	△0.4	△1.5	△2.4

2024/2/2

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらはプレジジョンテクノロジーズセグメントの四半期ごとの推移です。

左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側は棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第3四半期の売上高は539億円、前四半期から4.9%の増加となりました。

ボールベアリングの売上高は382億円、前四半期比で2.9%の増加となりました。外販数量は月平均で2億1,900万個、前四半期比で9.2%の増加でした。これは、主に自動車向けが市場回復とコンテンツグロースにより増加したこと、また、データセンター向けはまだ回復は弱いもののボトムアウトの若干の兆しが出てきたことが要因です。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は115億円となり、前四半期比で13.3%の増加でした。

ピボットアッセンブリーは43億円となり、前四半期比で1.9%の増加となりました。

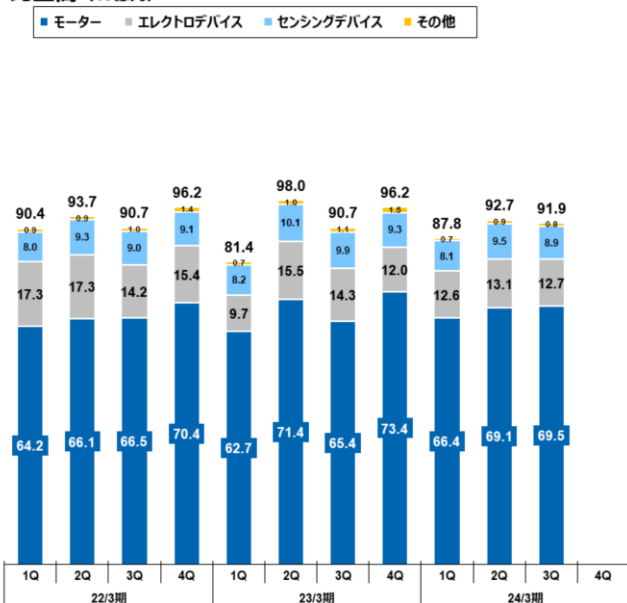
営業利益ですが、当四半期は98億円、営業利益率は18.2%となりました。

前四半期比では、営業利益は8.3%の増加、営業利益率では0.6ポイントの上昇となります。

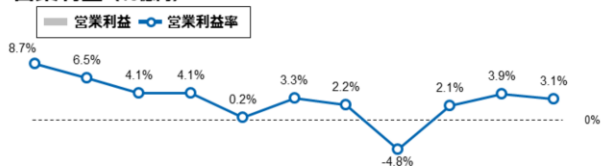
製品別では、ロッドエンド・ファスナー、ピボットアッセンブリーは前四半期比増益となりました。

モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	△0.7	△1.8	△1.4	△0.6	△4.6
その他	-	-	-	△6.3	△6.3
合計	△0.7	△1.8	△1.4	△6.9	△10.9

2024/2/2

6

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらはモーター・ライティング & センシングセグメントの四半期毎の推移です。

売上高は919億円、前四半期比で0.8%減となりました。

製品別では、モーターは前四半期比0.6%増の695億円となりました。これは、車載向けモーターを中心に堅調に推移したことによります。

エレクトロデバイスは127億円、前四半期比3.2%の減少となりました。

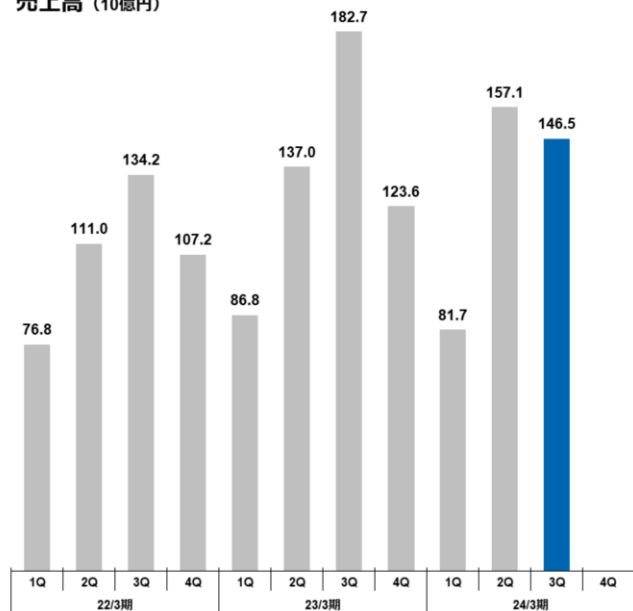
センシングデバイスの売上高は89億円となり、前四半期比で6.6%減しました。

営業利益は28億円、営業利益率は3.1%となりました。

前四半期では、営業利益は22.2%の減少、営業利益率は0.8ポイント減少となりました。

セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



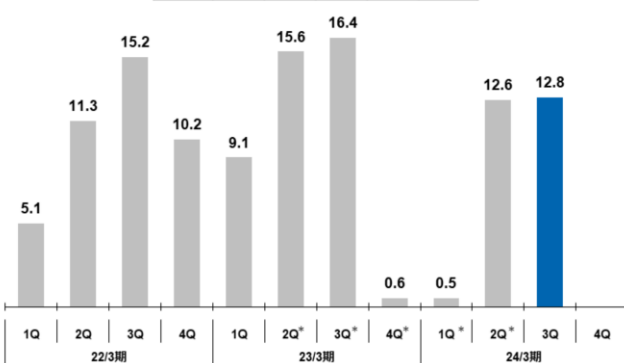
営業利益 (10億円)



*①本多通信工業・②ミネベアコネクのPPA評価完了に伴い、営業利益を修正
影響額は、23/3期2Q△63百万円(①)、3Q△937百万円(①・②)、4Q△51百万円(①・②)、24/3期1Q△6百万円(①・②)、2Q△31百万円(②)

23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	△0.4	△0.8	△1.2	△0.7	△3.1
その他	-	-	1.7	△3.7	△2.0
合計	△0.4	△0.8	0.5	△4.4	△5.1



2024/2/2

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

セミコンダクタ&エレクトロニクスセグメントの四半期毎の推移です。

売上高は1,465億円と、前四半期比6.8%の減少でした。

これは、主に光デバイスが新製品の作り込みにより増収だった一方、機構部品は減収となったことによるものです。

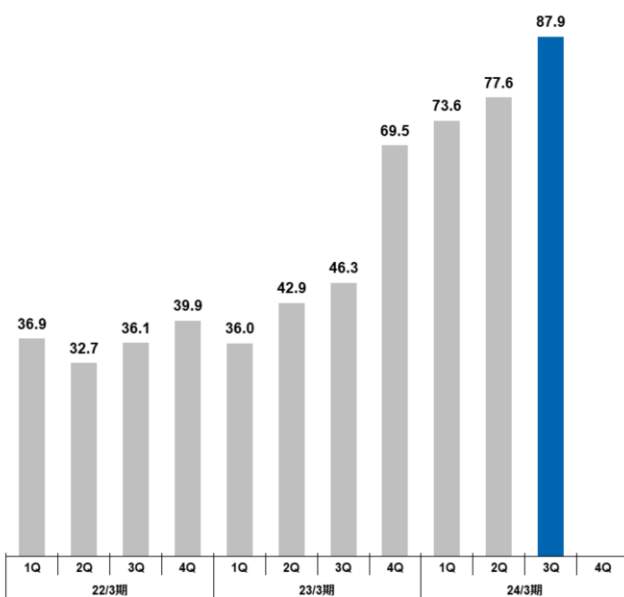
営業利益は128億円となり、営業利益率は8.7%となりました。

前四半期では、営業利益は1.2%の増加、営業利益率で0.7ポイント増加となりました。

これは、主に光デバイスの増収に伴った営業利益の増加によるものです。

アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	20.2	20.2
合計	-	-	-	20.2	20.2

2024/2/2

8

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

アクセスソリューションズセグメントの四半期ごとの推移です。

売上高は879億円、前四半期比で13.3%の増加となりました。

これは、主に自動車生産台数の回復に伴う受注の拡大によるものです。

営業利益は57億円、営業利益率は6.5%となりました。

前四半期比では、営業利益は4.9倍、営業利益率で5.0ポイント増加となりました。

これは主に生産性改善効果に伴う増益によるものです。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

(10億円)

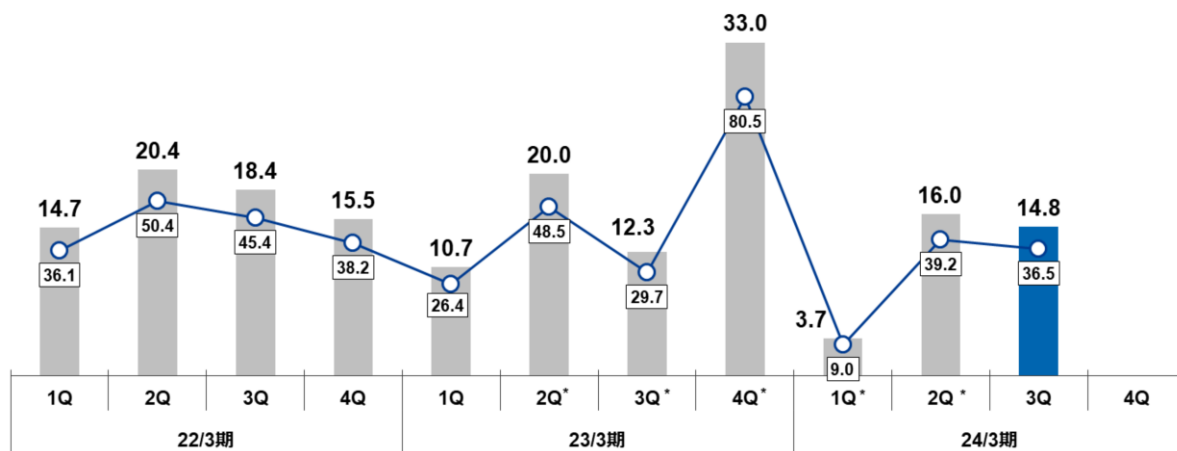
■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 ● 基本的1株当たり四半期利益 (円)

*①本多通信工業・②ミネベアコネクのPPA評価完了に伴い遡及修正

影響額は、

親会社の所有者に帰属する四半期利益: 23/3期2Q△38百万円(①)、3Q△877百万円(①・②)、4Q△40百万円(①・②)、24/3期1Q+4百万円(①・②)、2Q+23百万円(②)

基本的1株当たり四半期利益: 23/3期2Q△0.09円(①)、3Q△2.13円(①・②)、4Q△0.10円(①・②)、24/3期1Q+0.01円(①・②)、2Q△0.06円(②)



2024/2/2

9

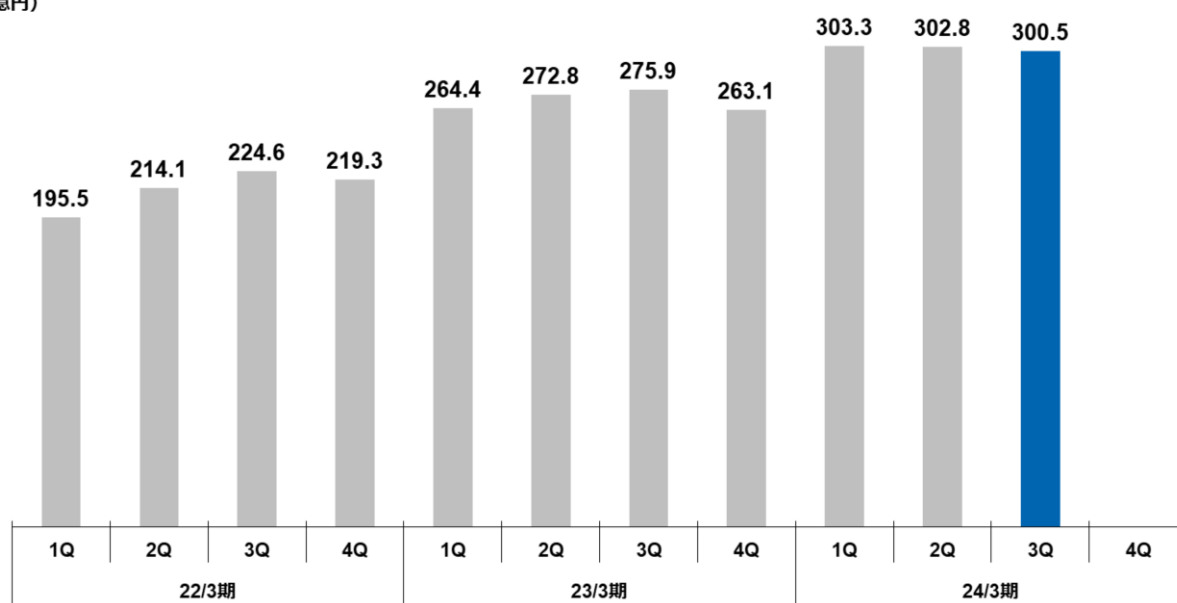
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は148億円、1株当たりでは36.5円となりました。

棚卸資産

(10億円)



2024/2/2

10

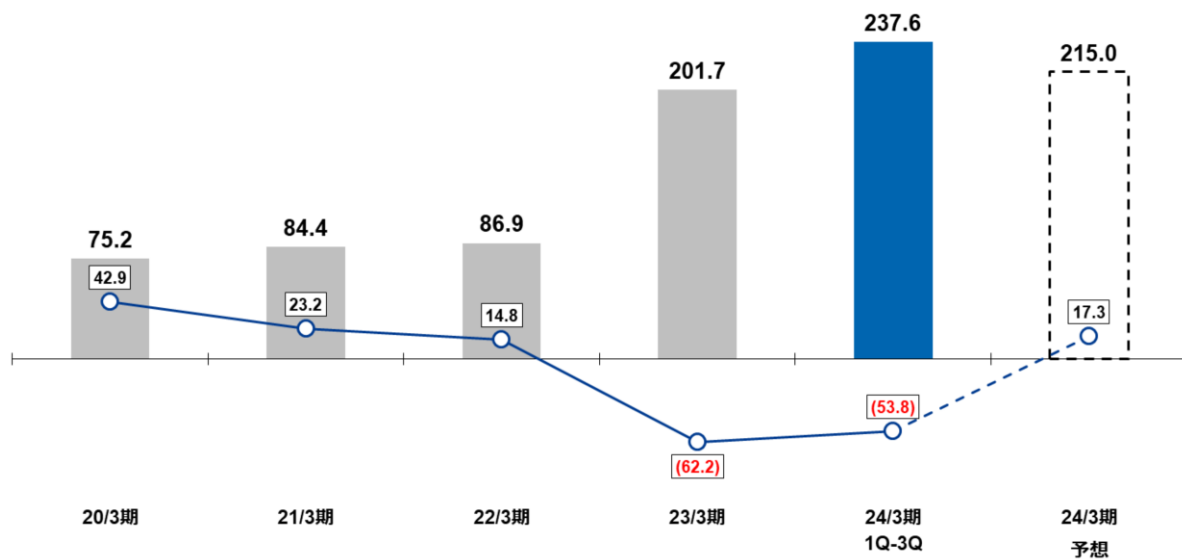
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

第3四半期末は3,005億円となり、3カ月前と比べると23億円の減少となりました。

ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円) ■ ネット有利子負債 * ● フリーキャッシュフロー



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - 「現金および現金同等物」 + 3か月超の定期預金

2024/2/2

11

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第3四半期末におけるネット有利子負債は2,376億円となり、2023年3月末から359億円増加しました。2024年3月期末は、高いキャッシュ創出力により、キャッシュポジションは改善することを見込んでいます。

業績予想

通期業績予想を修正

(百万円)	2023年3月期	2024年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,292,203	672,117	727,883	1,400,000	+8.3%
営業利益	100,471	27,226	42,774	70,000	-30.3%
税引前利益	95,069	30,265	39,735	70,000	-26.4%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	76,055	19,646	29,354	49,000	-35.6%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	185.30	48.17	72.48	120.65	-34.9%

為替レート	2023年3月期 通期	2024年3月期 4Q想定
US\$	134.19円	145.00円
ユーロ	139.90円	155.00円
タイバーツ	3.82円	4.10円
人民元	19.68円	20.00円

2024年3月期の通期業績予想ですが、市場の前提や受注状況を精査した結果、営業利益を770億円から700億円に下方修正いたしました。

セグメント別の詳細は14ページにございますが、売上高は、全体としては据え置きとし、セグメント間で若干の修正をいたしました。

営業利益については、ASは当初計画の達成を目指し据え置きとし、AS以外の各セグメントで下方修正しました。

為替レートは1ドル145円を想定しています。

セグメント別業績予想

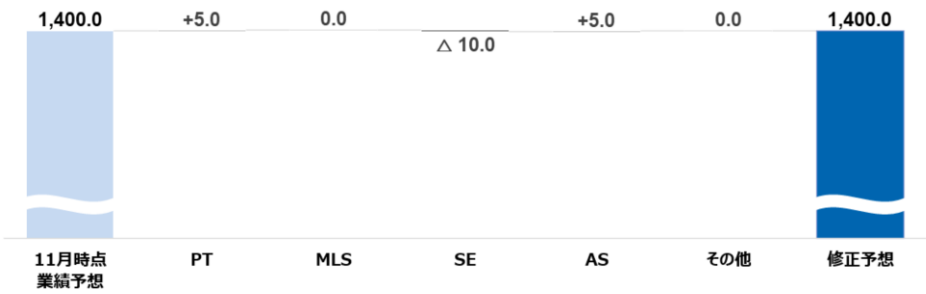
(百万円)	2023年3月期	2024年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,292,203	672,117	727,883	1,400,000	+8.3%
プレジジョンテクノロジーズ	197,300	99,361	110,639	210,000	+6.4%
モーター・ライティング&センシング	366,275	180,469	189,531	370,000	+1.0%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	530,079	238,803	251,197	490,000	-7.6%
アクセスソリューションズ	194,699	151,217	173,783	325,000	+66.9%
その他	3,850	2,267	2,733	5,000	+29.9%
営業利益	100,471	27,226	42,774	70,000	-30.3%
プレジジョンテクノロジーズ	42,951	17,250	20,750	38,000	-11.5%
モーター・ライティング&センシング	922	5,445	4,555	10,000	10.8倍
セミコンダクタ&エレクトロニクス	41,644	13,158	20,842	34,000	-18.4%
アクセスソリューションズ	22,302	660	9,340	10,000	-55.2%
その他	△48	△194	△806	△1,000	-
調整額	△7,300	△9,093	△11,907	△21,000	-

こちらは、各事業セグメント別の予想です。
次のスライドをご覧ください。

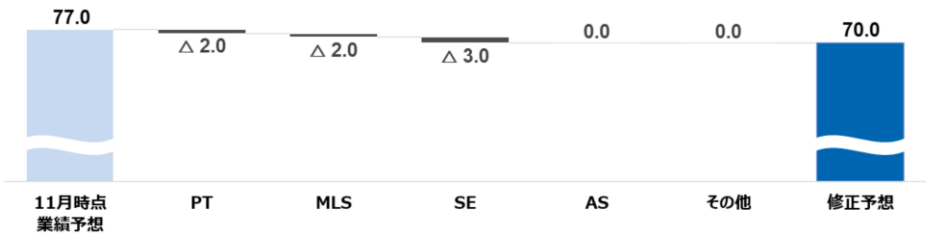
通期業績予想 11月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



こちらは、今回の業績予想修正と11月時点予想の差をチャートでお示したものです。

以上で私からの発表を終わります。

本日のポイント①

全体

- 24年3月期3Qは、スマートフォン関連の需要落ち込みが主因で未達となった。
- 通期でも、データセンターに加えて、スマートフォン、産業機器、家電など民生機器が予想外に低調で稼働が上がらず、業績見通しを下方修正せざるをえなかった。
- データセンター市場はボトムアウトしたが、回復は弱いものに留まっている。
- 自動車向けは、車の生産台数回復とコンテンツグロースで好調。航空機向けは堅調な成長局面。
- アクセスソリューションズは、第3四半期の営業利益が50億円を上回り、今期業績予想100億円の達成へ。
- 足元の状況は弱いものの、中長期的な事業拡大計画は不変。M&Aでも、EPSを着実に切り上げていく。

プレジジョン テクノロジーズ (PT)

- データセンターの本格回復待ち。
- 航空機向けは堅調な成長。タイとインドで工場生産能力を増強中。

モーター・ライティング& センシング (MLS)

- 車載モーターは、市場回復とコンテンツグロースにより事業拡大が加速。
- バックライトは、車載・タブレット向けビジネスで収益確保。

セミコンダクタ& エレクトロニクス (SE)

- アナログ半導体は緩やかに回復。
- 日立パワーデバイスの事業統合を進め、売上高2,000億円早期実現へ。
- 光デバイスは3Qは北米スマートフォンの需要減を受けて減少。4Qでの挽回は困難。

アクセスソリューションズ (AS)

- 四半期営業利益50億円まで収益力を向上したものの、他製品の落込はカバーできなかった。
- PMI活動と構造改革による収益性改善が進んでいる。相合製品で加速する。

2024/2/2

15

貝沼です。それでは私から、本日のポイントについてご説明します。

冒頭にお詫びを申し上げますなければならないことがあります。

2Qの決算説明会では、2024年3月期の営業利益は最低でも770億円というご説明をしていましたが、実際は3ヶ月後に修正を行わざるを得ず、大変心苦しく思っています。

ベアリングはV字回復とはならず、今が本当の意味でのボトムであり、来期から緩やかに回復していくシナリオの蓋然性が極めて高くなったと考えています。来期については、この3月に精査させていただき、5月に発表とならざるを得ないと思っています。

通期営業利益予想は700億円に修正

ポイント

- 足元の市況は弱含んでいるものの、競争環境等には変化なし。
- 中長期の成長戦略は堅持する。
- 自動化推進プロジェクトにより、
2024年3月期は約6,000名分の工程を自動化へ。
- 無駄を削り景気回復の利益大幅拡大に備える。

(百万円)	2023年3月期 通 期	2024年3月期			
		1Q-3Q実績	4Q予想	通 期 予 想	前 期 比
売 上 高	1,292,203	1,053,324	346,676	1,400,000	+8.3%
営業利益	100,471	51,253	18,747	70,000	-30.3%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	76,055	34,400	14,600	49,000	-35.6%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	185.30	84.58	36.07	120.65	-34.9%

2024/2/2

16

ここで強調したいのは、競争関係には全く変化がないということです。むしろモーターなどは価格是正に
取り組み、ビジネスコストの回収準備は完了しています。数量が戻れば、利益に貢献することは確実だと思
っています。

ベアリングももう一段回復すれば、材料費以外はすべて利益となる水準に到達してきます。また、生産性
の改善に懸命に取り組んでおり、10%程度の改善が見えてきています。今はやるべきことをやって、
データセンターを中心とした回復の時期を待つことだと考えています。

航空機市場は、2025年3月期中にはコロナ前の水準に回復へ
堅調な成長市場において、圧倒的な生産力と社会的課題解決製品で収益性を向上

主なポイント

1 生産機数はコロナ前の水準に回復へ

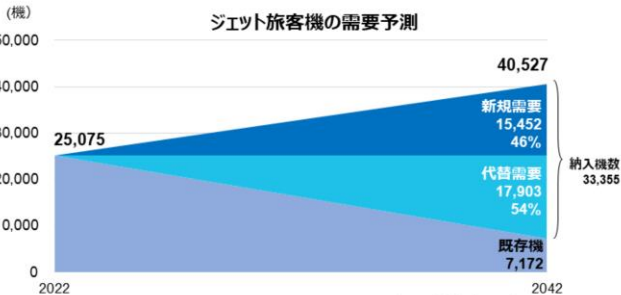
- 2025年3月期中にはコロナ前の生産機数を超える見通し。

2 堅調な成長市場でビジネス機会増

- 世界の商用機は、置き換え含めて需要拡大。
- 移動需要増加に伴い、有償旅客移動距離(RPK)は今後20年でコロナ前の2倍以上に延伸。
- 環境対応機材への貢献。

3 圧倒的な生産力と社会課題解決製品

- 工場生産能力拡大。
 - RO-RAの経営統合（2023年12月経営統合完了）
 - Mach Aeroインド工場第3棟（2024年9月稼働開始予定）
 - ロップリ工場拡張 24,000㎡（2025年より順次）
- グループ会社の相合力を結集し新規大型ビジネスを獲得。
 - CEROBEAR、C&A Tool Engineering、Mach Aero
- 社会的課題解決製品。
 - 低燃費エンジン・電動航空機関連製品



RO-RA製
リンクロッド



2023年12月経営統合したRO-RA 外観

航空機向けは順調に推移しており、コロナ前の水準に回復してきています。特にシングルアイルはほぼ回復しており、ダブルアイルについても来年の夏前を目途に回復するという客先からの内示も出始めています。これらを踏まえてRO-RAという会社を買収しました。スライドに写真があるリンクロッドと、ロッドエンドを組み合わせで垂直統合でお客様に販売します。現在、様々な国で航空機向けビジネスの生産工場の確保または準備を行っており、このような製品が加わることで、我々の航空機ビジネスをさらに拡大できると考えています。

RO-RA Aviation Systems GmbHの概要

名称	RO-RA Aviation Systems GmbH		
所在地	Gewerbepark 8, 4861 Schoerfling am Attersee, Austria		
代表者の役職・氏名	Helmut Wiesenberger (Managing Director)		
事業内容	航空宇宙市場向けリンクロッドアッセンブリ製品の設計・製造・販売 航空宇宙エンジン用高精度機械加工部品の設計・製造・販売		
資本金	250千ユーロ		
設立年月日	2006年2月27日		
大株主及び持株比率	Aero Products Invest GmbH 100%		
最近3年間の経営成績 及び財政状態		20/12期	21/12期
	売上高	21百万ユーロ	18百万ユーロ

2024/2/2

18

RO-RAの概要です。

グローバルニッチトップと相乗効果で売上高2,000億円・営業利益率30%を目指す

主なポイント

1 日立パワーデバイス

- ・統合準備は順調に進捗中。
- ・統合後の損益インパクト（イメージ）
売上高400億円、営業利益40億円

2 技術の相合活動

- ・グローバルニッチトップ製品で差別化。
- ・半導体技術者は総勢400名へ。
- ・相合活動プロジェクト（例）
内製パワー半導体拡充・高圧IC
モーター製品・電源製品の事業領域の拡大
制御アルゴリズム深化でモーター性能向上
省電力化・静音化など
その他、医療向けなどへのラインナップ拡大

アナログ半導体生産体制



2024/2/2

19

日立パワーデバイスとの経営統合が終了した段階で、必ず半導体は8本槍戦略の2番目の槍へ昇格させるとご説明しています。半導体は、2025年3月期下半期くらいから本格的に復活するという予測もありますが、これも3月に今一度確認し、5月に皆様にご報告したいと考えています。

おかげさまで、経営統合準備は順調に進んでいます。経営統合によって、エイブリックとの相合で医療向けのアナログ半導体の製品ラインナップが非常に広がっていきます。両者でオーバーラップするものがなく、医療という当社にとって未知の分野でアナログ半導体の存在感が増していくのではないかと考えています。5月の決算発表時には、独禁法のクリアランスもとれ、経営統合が完了している見込ですので、より詳しい我々の半導体戦略についてお話ししたいと考えています。

2024年3月期は営業利益100億円達成に向け、ターンアラウンド実現へ

主なポイント

- 1 3Q営業利益は57億円達成。
自動車生産台数の回復とともに、
PMI・構造改革の成果が結実。
- 2 Tier1ポジションを活用し引合・受注を継続拡大。
- 3 次の成長の柱となる相合・高付加価値製品の
開発を加速。

➤ フラッシュハンドル
デザイン性や空力性能
を向上。



➤ eラッチ
ドアを施錠する装置。



➤ パワーロージャースystem

● CSD (Compact spindle drive)
バックドアの両端に
搭載し電動開閉。

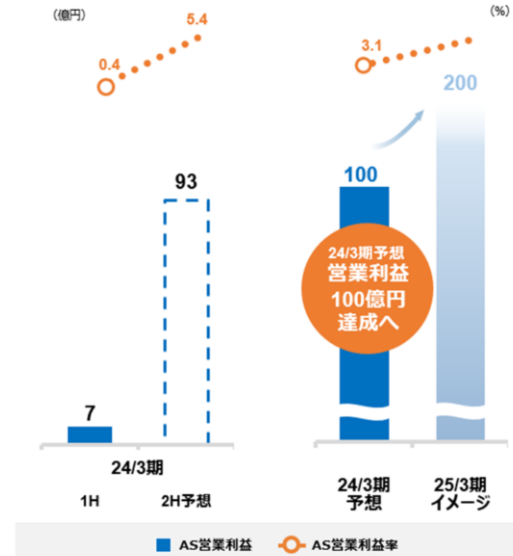


● CPD (Charge port door)
EVの給電口を開閉。



➤ ドアミラー

複合化の需要高まる。



2024/2/2

20

アクセスソリューションズは3Qでは想定通り営業利益57億円の実績を出すことができ、皆様のご心配もある程度払拭できたのではないかと考えています。

現在OEMでは、様々な問題で生産が滞っており、石川県の地震の影響を受けたサプライチェーン問題などもあり、当社もスローダウンの影響を受けていないわけではありません。しかしながら、今期営業利益100億円はなんとか達成できるだろうという報告を受けています。4月からOEMも通常の生産活動に回復していきますので、来期は当然200億円を狙うという状況に大きな変化はありません。

トップダウンで徹底的な製造改革に着手中 2024年3月期は約6,000名分の工程を自動化へ

主なポイント

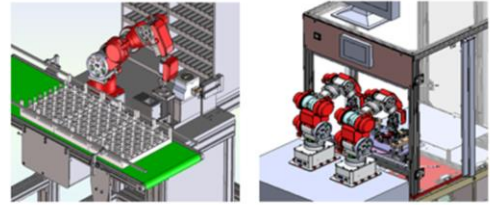
1 製造業として抱えている課題を解決

- ・ 製造業としての課題
製造現場で働く労働力の確保
世界的な賃金上昇
次世代への製造技術伝承
品質の安定・向上 など
- ・ グループ全社の工程を分類・類型化し自動化する。
2024年3月期は約6,000名分
2026年3月期まで累計約13,000名分の工程を自動化

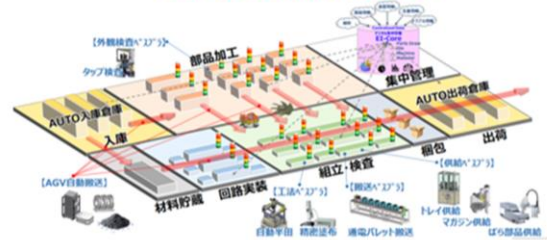
2 AI/DXを駆使した製造システムの構築

- ・ 当社独自の課題
経営統合した会社は、それぞれ製造思想が異なっている
- ・ 改善手法やITツールを統一して世界標準を構築する。
- ・ トップダウンで製造現場の無駄を省く。

Pick & Placeと画像処理(例)



一気通貫ワンフロアモノづくり



2024/2/2

21

なかなか生産の自動化が進まないというご指摘を受けることもあったのですが、ついに着手することができ、東京クロステックガーデンにロボットフロアをつくりました。様々なトライアルを重ね、どのようにラインに投入していくか検討しています。まず、2024年3月までは6,000名分の省人化に取り組み、順次単純作業を中心に各工程の自動化に取り組んでいきます。2026年3月期までは累計13,000名分の工程を自動化する計画です。賃金の上昇もあり、各国で人の採用も難しくなっていきますが、長年の構想をようやく実施できる段階となりました。

国内外でカーボンニュートラルへの取り組みを加速

1 千歳事業所 自己託送

- ・国内初* 半導体工場として生産活動に太陽光発電を活用。
北海道5拠点に大規模システムを設置。

発電量：合計約16.7GWh/ CO₂排出量削減：9,020t-CO₂/年

*日本における初の半導体前工程工場による太陽光発電電力活用による生産活動（ワールドキネクトコーポレーション調べ）



2 カンボジア 太陽光発電事業

- ・カンボジア鉱業エネルギー省と覚書を締結。
同国政府認定電力事業者SchneiTec社と協働し、太陽光発電事業を
2026年3月期中に操業開始予定（カンボジア プルサット州クラコー地区）。

現地法人の定款を変更予定

- ・カンボジア国内の既存工場、および将来の工場拡張時に
100%再生可能エネルギーによる稼働を目指す。

発電量：合計約70GWh（完成時）/ CO₂排出量削減：32,000t-CO₂/年（完成時）



SchneiTec社にて設置済の太陽光発電システム



3 フィリピン 電力調達契約（PPA）

- ・自家発電に加えて、再生可能エネルギー電力調達契約を締結。
2024年2月よりセブ2工場でカーボンニュートラル100%達成。

2024/2/2

22

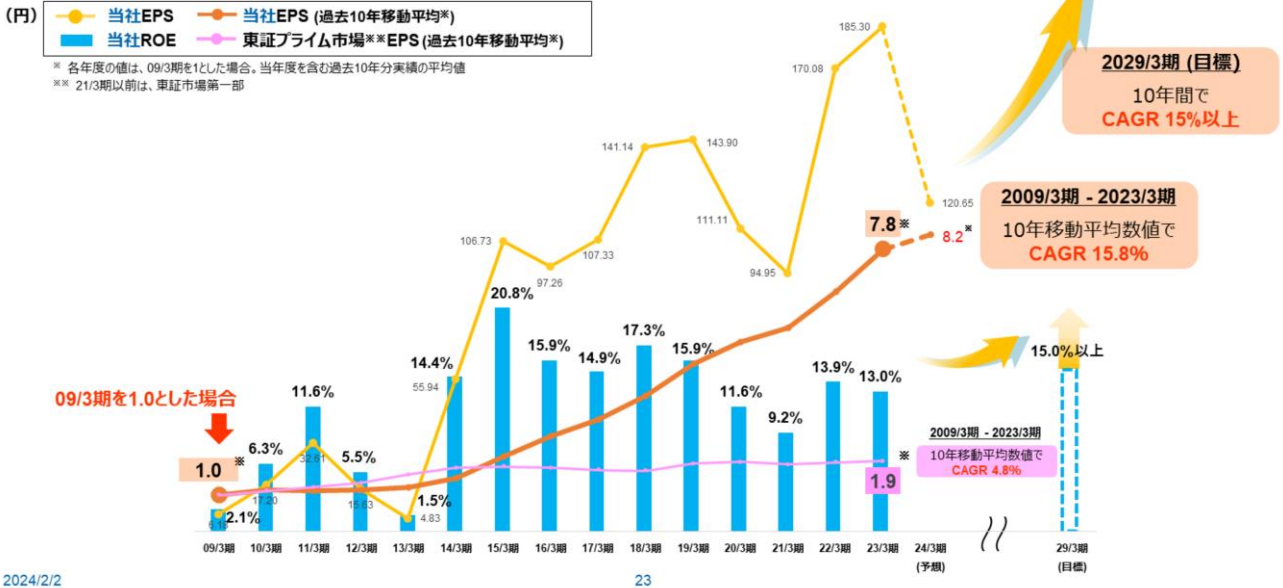
カンボジアで50MWの大規模太陽光発電事業を開始します。カンボジアのPPSEZという工業団地にある3棟の工場で現在使用している電気の1.5倍の発電をするということで政府の許可をいただき、パートナーにも恵まれ、2025年を目指してプルサット州に太陽光発電ファームを作ります。現地法人は2024年6月に株主総会で定款変更を行い発電業者になります。究極の垂直統合をカンボジアでも生み出すということです。

また、カンボジア、フィリピンに続き、タイでも政府と交渉しており、来期には何らかの発表ができると思っています。

我々はカーボンニュートラルを避けて成長できないと思っています。現在の成長スピードや、M&Aで加わる工場がカーボンニュートラルではない場合などを踏まえると、100%の達成は難しい目標ではありますが、諦めずにできることをやり、海外政府とも協力しながら地域でのプレゼンスをあげていきたいと考えています。

EPS成長率及びROE

EPS : 09/3期-23/3期はCAGR15.8%、29/3期に向けてCAGR15%以上を目指す
ROE : 09/3期-23/3期平均実績11.6%、29/3期に向けて15%以上を目指す



今までのEPSの成長率について、アップダウンはありますが、CAGRは15.8%、私の社長就任時を1とすると7.8倍となります。今後もEPSを意識しながら成長を続けてまいりたいと思います。

配当金

配当は前年度水準を維持する予定

24年3月期 配当

23年3月期 配当 (ご参考) 年間配当40円 (中間配当20円 期末配当20円)

中間配当 **20** 円/株

期末配当 (予定) **未定** → **20** 円/株

自己株式の取得

今後も機動的に実施していく

これまでの累計実績 (09年3月期以降)

- ①取得した株式の総数 : 51,363 千株
- ②取得価額の総額 : 76,665,317 千円
- ③平均取得単価 (②÷①) : 1,493 円

(ご参考)

24年3月期実績

8月7日から10月27日まで(約定ベース) で4,000千株を
9,643,584千円で取得いたしました。(2023年10月30日リリース)

自己株式の活用

使途	株式数
ミツミ電機経営統合時の株式交換	△ 20,000 千株
ミツミ電機より承継したユーロ円転換社債の転換	△ 9,661 千株
取締役退任時のストックオプション権利行使	△ 88 千株
役員持株信託への権利行使	△ 10 千株
合計	△ 29,759 千株

2023年12月末時点の自己株式数 : 22,693千株

配当は、期末20円、年間40円とし、安定配当を継続実施していきたいと考えています。

株主還元という観点では、自己株式の取得においては15年間で累計約5,100万株、総額767億円を取得しました。その中で、ミツミとの経営統合で2,000万株、ミツミ電機より承継したユーロ円転換社債の転換で960万株を活用し、現在保有している自己株式は2,269万株となります。今後も株主還元を大切にしてまいります。

(27ページをご覧ください)



当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

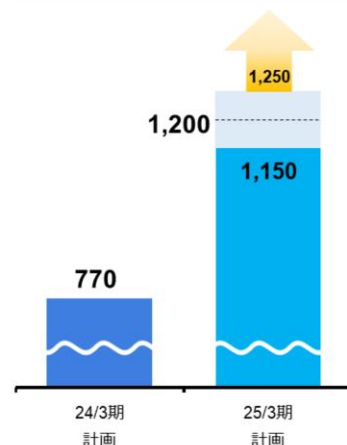
参考資料

24/3期 通期営業利益予想比

市場回復時点のイメージ

営業利益のイメージ (億円)

ベアリング (航空機関連含む)	データセンター市場等の回復	+130~170億円
モーター	スピンドル及び非車載モーター等の回復	+90~110億円
アクセス	自動車市場完全回復+PMI効果	+90~110億円
半導体	市況回復+滋賀工場 黒字化 +日立パワーデバイス等	+70~90億円
合計		+380~480億円



上記に加えた更なる上振れ要因
車載モーター・車載バックライト

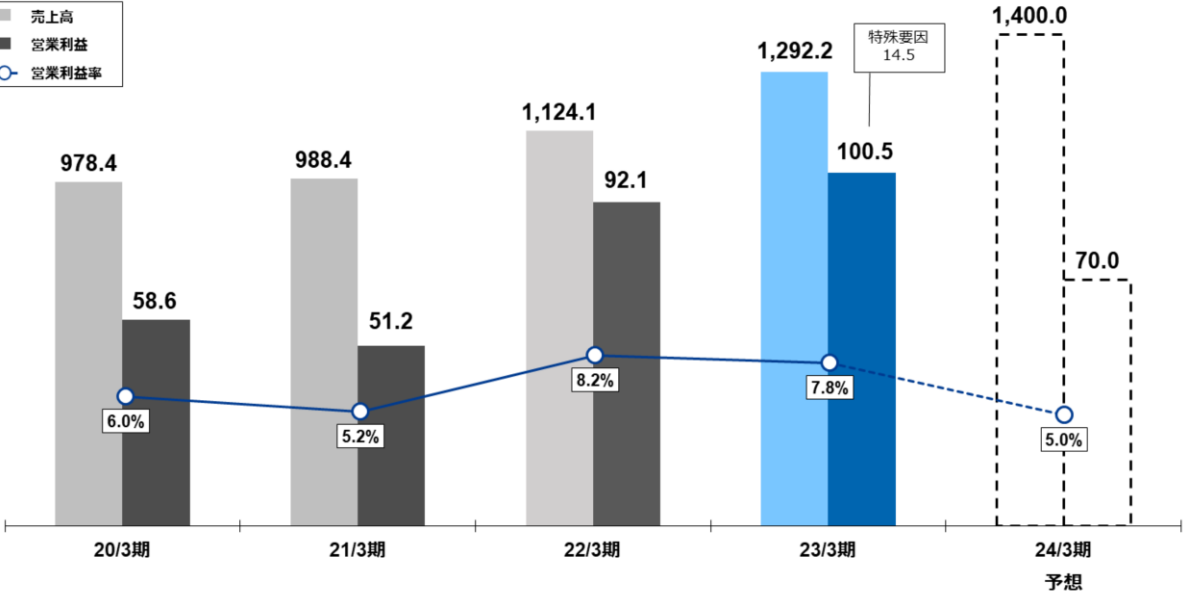
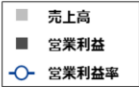
来期については、参考資料27ページで、11月の2Q決算説明会の時にお示した「市場回復時のイメージ」を再掲しましたように、ここで想定していた営業利益770億円という発射台は今回700億円になってしまいましたが、我々のポテンシャルの営業利益はこのような水準になると考えています。問題は市場回復が4月なのか、6月か、夏が終わってからなのか、時期によって変動しますが、5月の決算説明会でもう1度ご説明したいと思っています。

以上で私の発表を終わります。

ありがとうございました。

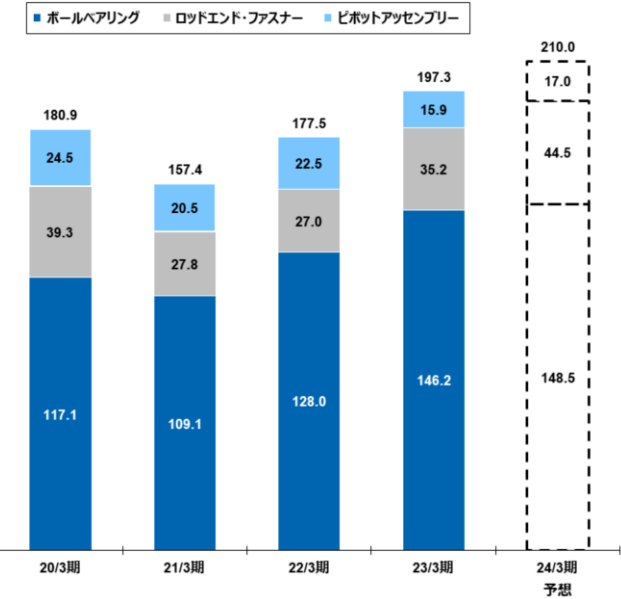
売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)

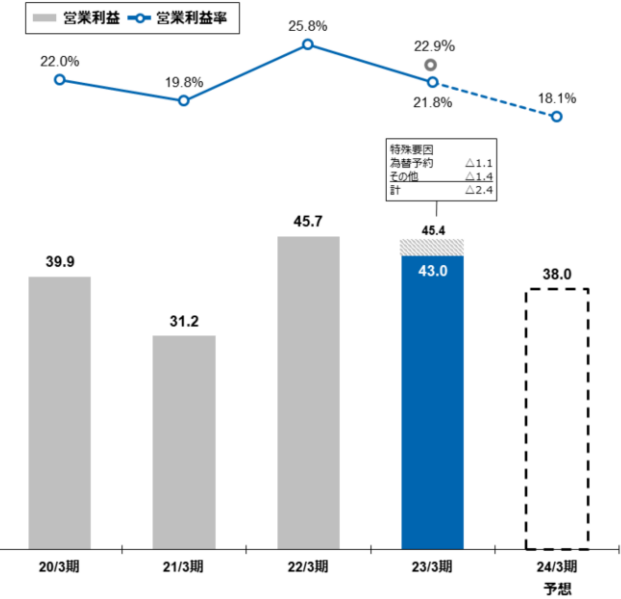


プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (10億円)

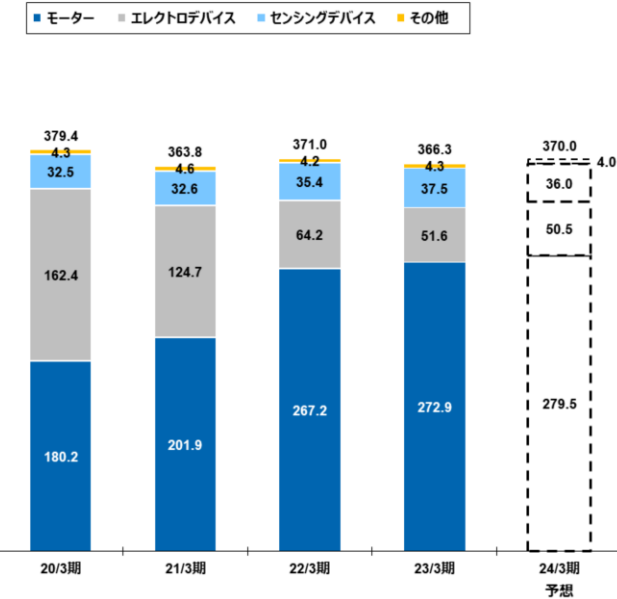


営業利益 (10億円)

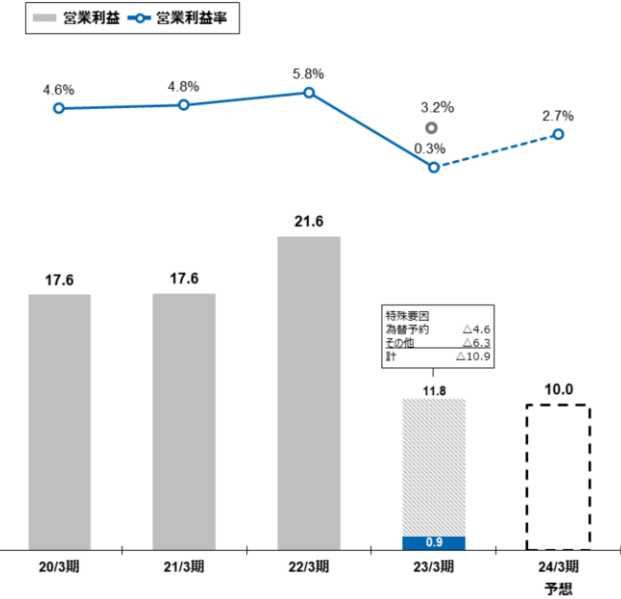


モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

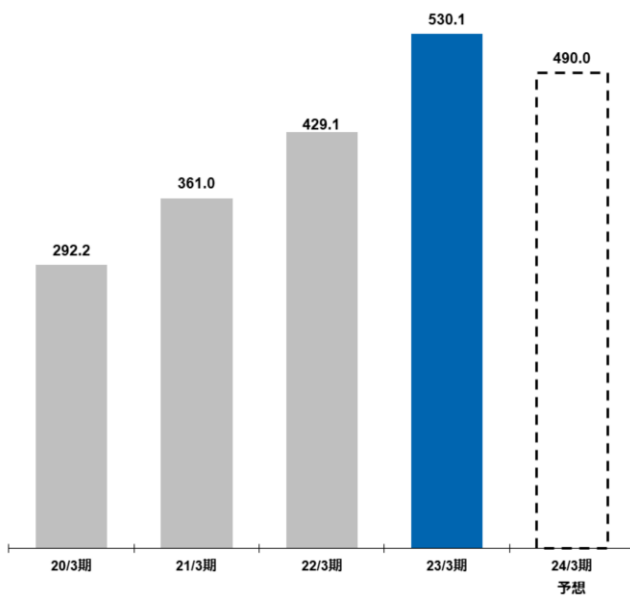


営業利益 (10億円)

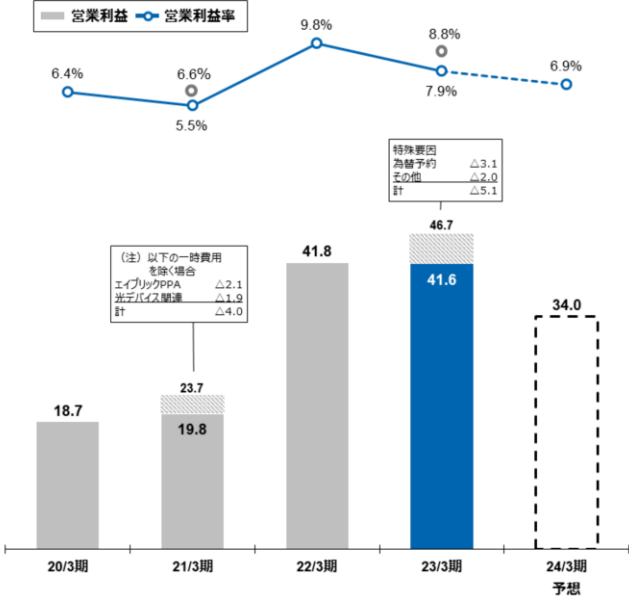


セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



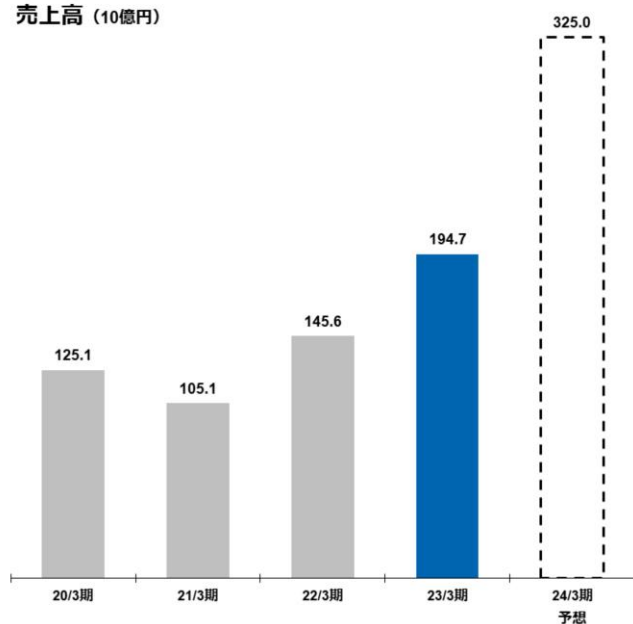
営業利益 (10億円)



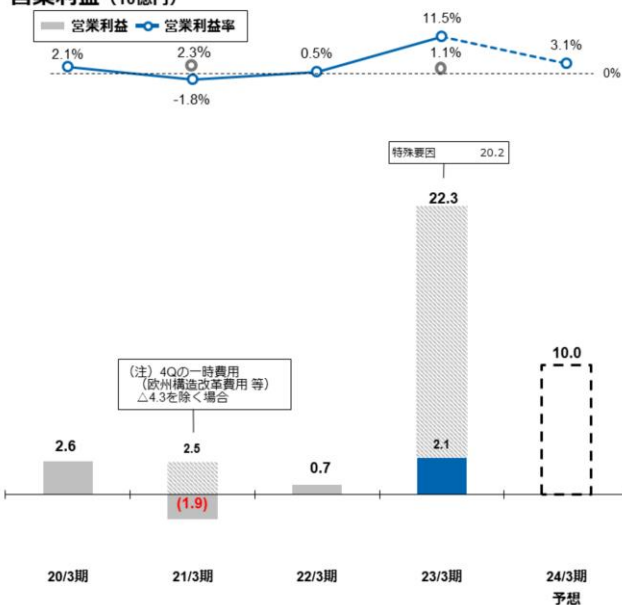
アクセスソリューションズ セグメント (AS)

決算期変更に伴い
20/3期は2019年1-3月
の数値を含みます

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



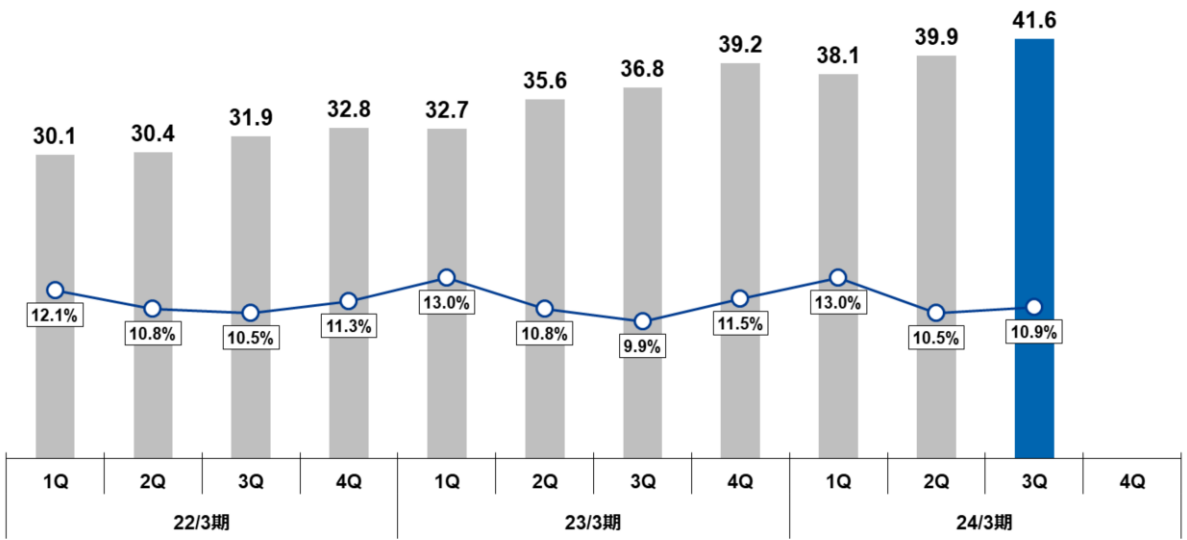
2024/2/2

32

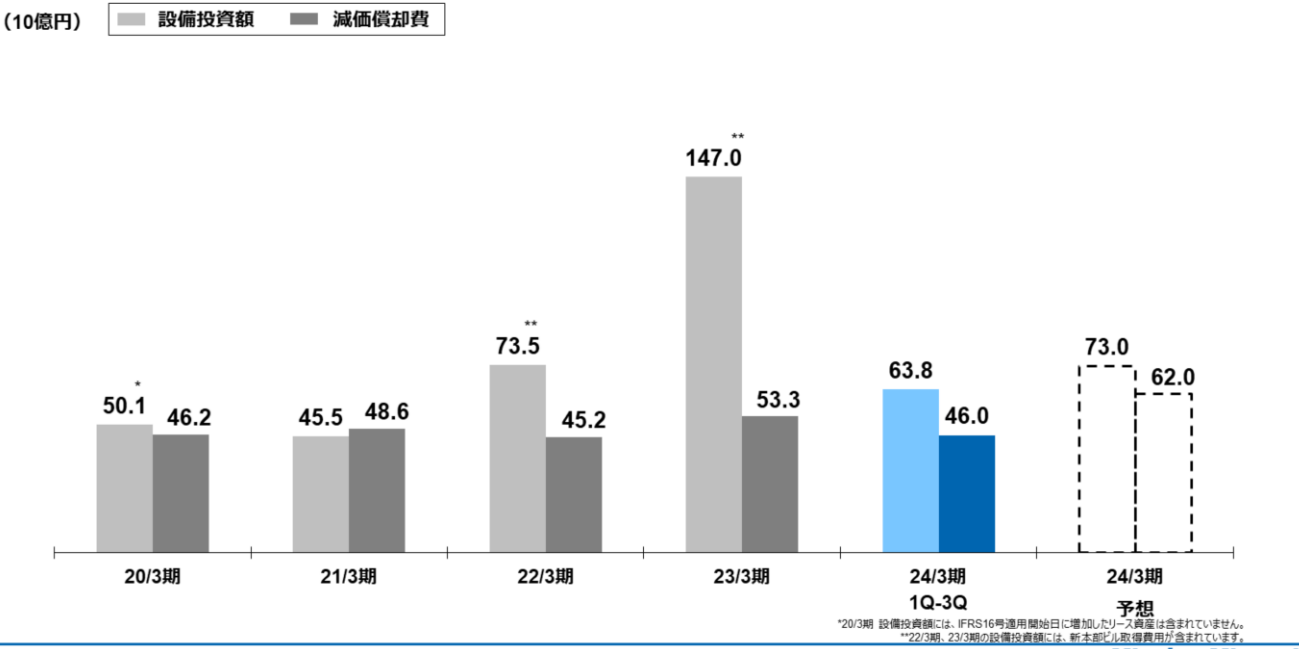
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

販管費

(10億円) ■ 販管費 ● 売上高販管費比率



設備投資額・減価償却費



ROIC（投下資本利益率）

アクセスソリューションズ(AS)は19/3は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含めない。

ミネベアミツミ版

=

NOPAT
(営業利益+特別損益) × (1-税率)

投下資本
(受取手形・売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形・買掛金)

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

